

宇宙開発戦略本部 宇宙開発戦略専門調査会 第8回会合(議事要旨)

1. 日時 平成 21 年 5 月 26 日(火) 10:00～11:30

2. 場所 官邸 4 階 大会議室

3. 議事概要

(1) 開会

開会にあたり、野田宇宙開発担当大臣より挨拶。

(2) 宇宙基本計画(案)について

宇宙基本計画(案)について、意見の募集の結果と合わせ、事務局より資料 1、2 に基づき説明。その後の主な意見、質疑応答は以下のとおり。

- 産業、安全保障、研究開発、外交等がバランス良く計画され、具体的プロジェクトや年度毎の打ち上げ回数を記載したことはよかったとの意見があった。
- 推進体制としては、本部が司令塔として関係府省の総合調整を行うとともに、研究開発、実利用面において、施策の推進に関する決定権限と予算枠を持つことが重要との意見があり、事務局より、体制については現在ワーキンググループで検討中であり、計画を推進する強力な体制が重要であるという意見も踏まえ、引き続き検討していきたい旨回答。
- 宇宙予算は今年度 10%増となったが、欧米と比べればまだまだ小さい。予算を 5 年で 2 倍程度にしていくことが必要。パブリックコメントの説明にもあったが、予算・人員などについて、ここがないと絵に描いた餅になり、魂が入っていない基本計画になる。基本計画の策定までに是非前向きに書き込んでほしい、とのコメントが複数あり、事務局としては委員の皆様と同じ思いであり、頂いた意見を踏まえ、財務当局とも引き続き調整、努力していきたいと回答。
- 昨今、安全保障分野における宇宙開発利用の役割が高まってきており、早期警戒衛星については、センサの研究開発にとどまるのではなく、できるだけ早く実証技術を行い、開発を進めるべき。また、安全保障について、東南アジア諸国などから警戒の目で見られる可能性があるが、我が国の安全保障を揺るがしてはならない。大切なことは、どのような目的で何をしていくのか、予算、人員、計画等、示せるものは明確に示すことで、我が国の国際社会における経済大国、平和国家としての態度をきちんと示すことである、との意見があり、国民や諸外国に対する透明性を維持することの重要性等、意見については、防衛大綱、中期防の策定の作業の方にも伝えていきたい旨回答。
- 準天頂衛星については、7 機体制を明確にすべき。そのためにも 3 機までは

国で実施すると同時に、中核となる省庁を明確にする必要がある、との意見について、現状の基本計画では、3機ならこう、7機ならこう、という将来のゴールの選択肢を示した形にしている。具体的な進め方としては、まず1機を打ち上げ、技術的な見通しを付けることが重要と認識している旨回答。

- 予想を超える多くのパブリックコメントを頂いたということは、国民の宇宙に対する関心の高さを表している。コメントが全て取り入れられた訳ではないが、精査をし、取捨選択をして、適切に反映されており、我々が考え落としていたような点についての補填が行われたと認識。
- パブリックコメントでは、宇宙科学が高く評価されていることに感謝したい。特に「はやぶさ」は非常に評価が高かった。関連して、本文の7ページ、下から二つめのパラグラフ、外交における宇宙科学分野の現状認識について、より具体的に、宇宙天文学や太陽系探査についても共同実施が進んでいるので、それらについても記述すべきではないか、との意見があり、事務局から、修文を考えたい旨回答。
- 我が国の宇宙先進国の地位は、宇宙科学における日米露欧4極の探査プログラムの推進の中で築かれてきたと認識しており、これが国際社会の中での日本の底力であり、宇宙外交に資するものとなっている。今後とも、基本的な宇宙科学技術に力を入れていくことが重要である、との意見があった。
- 先日、宇宙ステーションに滞在中の若田宇宙飛行士から突然電話を受けた。米国の中継衛星を活用しているとのことであったが、音声の遅延もなく、普通に会話できた。宇宙空間は、直接人が行って活動するという時代に入ったということを実感した。今後、有人活動をサポートするロボットも活用しながら、有人飛行を自力で行うことができるように、有人飛行に重点を置いた施策を推進していくことを希望する、との意見があり、頂いた意見を踏まえつつ、今後の具体的な検討を深めていきたい旨回答。
- 二足歩行ロボットについて批判的な意見が多かったとのことであるが、これまでいろいろなところでいろいろな人と話をしたが、子供達を含め、一般の方は、興奮して、すばらしいアイデアだと言う。一方、宇宙業界のエンジニアは批判的なコメントが多く、はっきり2つに分かれる。あくまでも二足歩行ロボットは日本の技術のシンボルとして送り出すものであり、何が何でもこれで探査を行うというものではない。具体的な詰めは今後行うことになるが、今回の修文では、二足歩行ロボットという言葉を活かしつつ、高度なロボットを二足歩行に限定せずに、より広く捉えられるようになっており、コメントを踏まえた修正としては適切ではないか、との意見があり、二足歩行ロボットの位置付けについては、これまでの議論も含め、今後の検討の中でもメッセージとして伝えていきたいと回答。
- パブリックコメントで、「だいち」「ひまわり」などを継続して打上げてほしいというコメントがあったとのこと、うれしく感じる。また、なぜ宇宙なのか、宇宙で何ができるのか、について、第2章に新たに付け加えた書きぶりは良いのではな

いか、との意見があった。

- 17ページの下から二つめのパラグラフの上から3行目、局地的な大雨や集中豪雨の予測などは困難という表現があるが、局地的な大雨と集中豪雨は似たように聞こえるので、ゲリラ的豪雨を念頭に置いているのであれば、局地的で突発的な豪雨といった言い方がいいのではないか、との意見があり、事務局から、修文を考えたい旨回答。
- 基本計画を具体化していくためには、国の想い、すなわち予算が付かないと具体化できない。宇宙開発全般(基礎研究を含め)に対する国の考え方を、予算の形で示すことが重要。基礎研究は先行投資的なものであり、現状の単年度予算から、中長期的な予算の在り方も考えていくべき、との意見があった。
- 宇宙開発は衛星、ロケット等の開発のみならず、その周りを支える力、すなわち、基盤的な研究開発、ITやソフトウェアなどの総合力が必要。また、基本計画を実施していくためには、予算も重要であるが、人材についても重要である、との意見があった。
- 40ページに、テザー技術についての記載があるが、テザー技術については専門家の間においても様々な議論があり、この(注)の表現は、このような研究も始まったばかりであり、まだ認知されているものではないため、例示として適当ではなく、削除した方がよいのではないか、との意見があり、修文を考えたい旨回答。

なお、本日頂いた意見のうち、宇宙基本計画(案)の表現の修正が必要な箇所については、座長に一任してご確認いただくこととした。座長より、我が国で初めての宇宙の総合戦略への第一歩として宇宙基本計画(案)の取りまとめに即し、今後も基本計画に沿った施策の推進を見届けていきたいとの発言があった。

また、今後の宇宙開発利用全般にわたって、追加的な意見を伺った。

- 宇宙開発は、宇宙のみならず、そこで開発された技術が地上でも応用できる、基礎的な技術であると同時に、地球の自然環境の保全と生命体の生存のための基本的に必要なものであるとの認識である。
- 防衛目的の機能と他目的の機能を併せ持たせるデュアルユースについて、利用の観点から防衛と民生の区別があるだけであり、技術的には境界はないため、研究開発を進めると素直に書いた方が一般的には分かりやすいのではないか。
- どのような委員会でも公開すべきという意見が出るが、議事概要も公開しており、秘密主義でやっているわけではない。忌憚ない話をしにくいような形の委員会では、何のために議論しているのか分からなくなるため、テーマによってはこのような形で良いのではないか。
- これまで大変有意義な議論ができたが、今後どの様に進めていくかということ

も大切である。本調査会には各界の代表がおられ、宇宙の科学の専門家も何人かいたが、今後進めて行くにあたり、宇宙技術の専門家、技術者の代表にも入っていただき、直接意見を伺えるようにした方がよいのではないか。

- 研究開発、技術開発は長期的な視野で行わなければならない。最近、大学においても短期的な成果を求めることが非常に多くなっており、心配しているところ。宇宙というのは技術開発も長期的な展望に立って斬新なものを作っていくことが必要な分野であり、特に長期的視野が重要である。
- 宇宙開発というのは長く時間のかかるものであり、その重要性など、子供達の世代に伝達していくことが重要である。我々の未来について、子供達に心を込めて伝えていくということを念頭に置きながら、宇宙開発利用を進めていくべきである。

(3) 閉会

今後の予定について事務局より説明。宇宙基本計画(案)については来週早々にも宇宙開発戦略本部会合を開催して頂く準備を行っており、そこで決定して頂くべく作業を進める。また、体制検討、宇宙活動に関する法制の2つのワーキンググループが並行して動いており、今後これらの動きを見て適切なタイミングで専門調査会を開催させて頂きたい旨説明。

最後に、閉会にあたり、漆間官房副長官より挨拶。

以上